

2つの無線システムで倉庫の温度・湿度チェックを自動化

東京・府中にあるサントリーの武蔵野ビール工場では2007年12月、ビールの保管体制を強化するため、倉庫内の温度・湿度の計測、データ集計・加工を自動で行う「温度・湿度見える化システム」を導入した。

従来、人力で行っていた測定作業は、800メートル以上の距離で測定ポイントが8カ所もあるため、一度の測定作業に30分以上かかり、限られた稼働時間の中では1日1回しか巡回できなかった。

また、測定データはオフィスのパソコンに手入力し、加工なども担当者個人で行っていたため、ミスが発生する可能性があった。

構築したシステムは、倉庫内に8台の子

機(無線温湿度センサー)と3台の親機(二次側監視装置)を設置し、データ収集・加工を依頼するASP事業者のセンターにデータを送信する仕組みになっている。

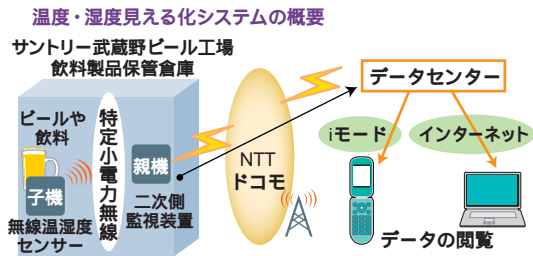
子機 親機間は特定小電力無線、親機センターの間は携帯電話網(NTTドコモ)を利用し、製品が積まれた倉庫でも容易に導入できた。設置工事費を含めた初期コストも100万円程度で済んだという。

温度・湿度見える化システムの導入によって24時間365日のデータ測定が可能になり、測定・集計・加工にかかる人的稼働、それに伴うミスの可能性もゼロになった。また、集計したデータは携帯電

| | | | |
|----------|---------|----------|---------|
| 業種 | 飲料メーカー | | |
| 活用分野 | 業務効率化 | データ集計・加工 | |
| キーテクノロジー | 特定小電力無線 | 携帯電話 | ASPサービス |

話でも閲覧が可能。いつでもどこでも倉庫の状況を把握し、製品の管理品質を高水準で維持できるようになった。

さらに、センター側でのデータ管理、閲覧時のユーザー認証・SSL通信により、情報セキュリティも大幅に向上させることができたという。



Profile

サントリー株式会社 武蔵野ビール工場
<http://www.suntory.co.jp/factory/musashino/>

所在地

東京都府中市矢崎町3-1

事業内容

各種飲料、健康食品の製造・販売など